

# しののめ

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail: [sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp](mailto:sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp)

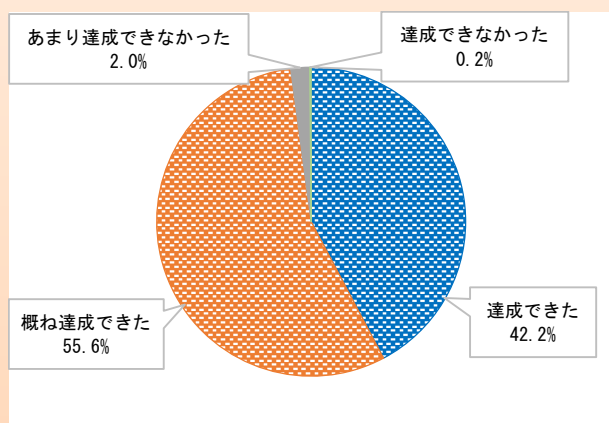
## 目次

「令和7年度研修講座 アンケート集計結果」…………… p.1

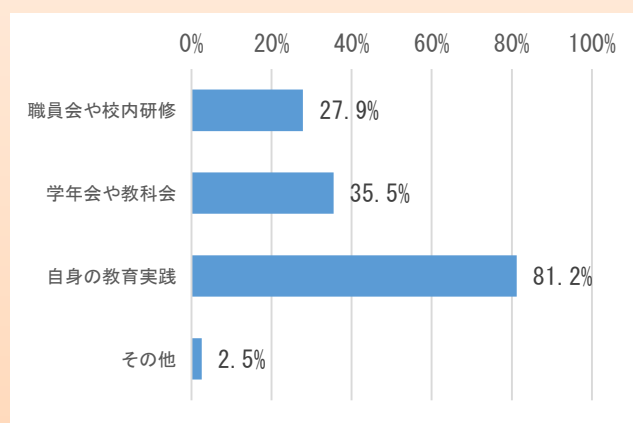
「令和7年度研修講座 受講者のふりかえりより」…………… p.2

### 令和7年度研修講座 アンケート集計結果 (令和8年1月9日現在)

(1) 受講者自身が立てた研修の目標の達成度



(2) 研修内容の共有・活用方法 (複数回答可)



今年度は「『対話』から広がる『新たな教師の学びの姿』の実現」を目標に、受講者同士の対話に重点を置いた研修を実施しました。受講者からは「視点が広がった」「悩みを共有できた」との肯定的な感想が多く寄せられ、異校種間での情報交換も高く評価されました。一方で、「対話の目的」が曖昧になり受講者が困惑する場面も見られたため、今後は目的の明確化と学びの深化が課題となります。

自己目標の達成度については、約2%の受講者が「達成できなかった」と回答しました。全国教員研修プラットフォームPlantで事前に「研修のねらい」を周知したものの、実際の研修内容との乖離が原因の一つと推測されます。今後は受講者のニーズをより詳細に把握し、個々の課題に寄り添った運営を行います。研修内容の共有・活用状況は、職員会議や学年部等での活用が50%未満に留まっています。今後は対話を通じた学びの質を高めるとともに、小規模なコミュニティでの共有を促すなど、現場への還元を強化するための働きかけを継続します。引き続き、先生方の新たな実践を後押しする研修を目指してまいります。

### 1. 教師の資質・倫理観（在り方の再定義）

- 『信念だから』と思考停止するのではなく、『本当にこれでいいのか』と自問し続ける態度こそ、教育職としての倫理を保つ上で重要だと感じた。
- 子供の立場で物事を考え、いつまでも子供心を忘れない大人でありたい。そして、子供を守る立場であることを心にとめて生活していこうと思った。
- 教師自身が“学び続ける存在”でありたい。学習観や研修観を常にアップデートしていくことが、結果として子供たちの資質・能力の向上につながる。

### 2. 授業づくりと「探究」の本質

- 資料提示やグループワークはあくまで「手段」であって「目的」ではない。何を育みたいかという目的を常に意識しなければならない。
- 実際に自分が学習者として探究を体験し、本物に出会うワクワクや整理の難しさを知った。自分が体験していないことを子どもにさせることはできない。
- 「できた・できない」の技能習得だけで評価するのではなく、思考の過程や取り組む姿勢に目を向けることが、安心して挑戦できる授業づくりに繋がる。

### 3. チーム学校・協働の推進

- 「自分だけでなんとかしなくていいんだ」と思えた。同僚性による協働、チーム学校としてそれぞれの役割を活かすことで大きな力となる。
- 良い職場の雰囲気があれば、生徒に良い学習環境を提供できる。日々の挨拶や声掛けといった小さな積み重ねが、教育の質向上や非違行為防止に直結する。
- 異校種（小・中・高）の教員との対話により、自分にはない視点や専門性を学ぶことができ、自身の「慣れ」による慢心に気づくことができた。

### 4. 特別支援・多様性への視座

- 学びにくさの壁は子供が持っているのではなく、教師（環境）が作ってしまっているということに気づかされた。
- UDL（学びのユニバーサルデザイン）は、漏れた子を支援する（リアクティブ）のではなく、最初から全員を想定する（プロアクティブ）ことが基本だ、と概念を覆された。
- 「障がい」を重く捉えすぎず、日常の一コマで「どうすれば共にできるか」を子供たちと一緒に考えること自体が共生社会の始まりである。

#### ◆お知らせ

今年度もセンター通信「しののめ」をご愛読いただきありがとうございました。  
今年度3月号の発行はありません。次号は、4月20日頃発行予定です。  
次号は、今年度当センターで取り組んだ調査研究の報告を掲載する予定です。